

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

<研究課題名>

家族性膵癌患者に対する術後補助化学療法の効果

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 消化器外科 (研究責任者) 岡村 行泰

<研究期間>

承認日 ~ 令和8(西暦2026)年3月31日

<研究の目的と意義>

家族性膵癌家系は、第一度近親(親、兄弟姉妹、子)の関係にある2人以上の膵癌患者を有する家系と定義され、第一度近親者に膵癌の家族歴を有する膵癌患者さんは家族性膵癌に該当します。

本研究の目的は、多施設より家族性膵癌患者さんのデータを集積することで、家族性膵癌患者に対する術後補助化学療法の意義を明らかにすることです。本研究の結果により、家族性膵癌患者に特化した治療戦略を選択できる可能性があります。

<利用する試料・情報の項目>

診療記録・検査データより、第一度近親者のいずれ(親、兄弟姉妹、子)が膵癌であったか、第一度近親者の膵癌罹患患者数、生年月日、性別、癌既往の有無、既往の癌腫、膵癌占拠部位、膵癌の切除可能性分類、切除検体病理結果、手術日、術式、出血量、手術時間、術中輸血の有無、術後補助化学療法レジメン、術後補助化学療法開始日、術後補助化学療法最終日(内服薬の場合は最終処方日)、最終無再発生存確認日とその時の再発または生存の有無、再発部位、再発後治療の有無、再発後治療でのプラチナ系抗がん剤使用有無(有りの場合、レジメンの詳細)、生存の有無、最終生存確認日、術前CA19-9値、術後補助化学療法開始前CA19-9値

<対象となる方>

2013年1月から2019年12月までの間に、術前化学療法を行わず、初回の膵癌外科切除(肉眼的根治切除)が行われ、術後補助化学療法が実施された患者さん

<研究の方法>

一般社団法人日本肝胆膵オンコロジーネットワーク Japan Oncology Network in Hepatobiliary and pancreas (JON-HBP)の参加施設で、本研究への参加に同意した施設の患者さんの診療記録・検査データを解析する。

<外部への試料・情報の提供の方法>

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。患者さん等の情報(氏名やIDなどの個人情報)は数字や記号などコードを付して対応表を作成し、患者さん等個人と結びつかない状態で取り扱われます。対応表は適切に管理し、当院外へ提供することはありません。

<研究組織>

JON-HBP ホームページ <https://jon-hbp.org>

<お問い合わせ窓口>

大阪国際がんセンター(大阪府大阪市中央区大手前3丁目1-69)
外科 氏名:(研究責任者) 秋田 裕史
電話:06-6945-1181 内線:(医局)5099